

2025 年 9 月 16 日

報道関係者各位

みんなく クラウドファンディング挑戦**「国立民族学博物館 | 1000 年の時を越える文化財。海を渡り日本へ」****2025 年 9 月 16 日（火）10：00～開始！**

国立民族学博物館は、READYFOR（レディーフォー）株式会社と連携し、ウズベキスタンの世界遺産「カフィル・カラ遺跡」より出土した考古遺物の日本初公開を目指し、クラウドファンディングへの挑戦を開始したことをお知らせいたします。



画像提供：日本・ウズベキスタン共同調査隊

カフィル・カラ遺跡 城塞部 近景

クラウドファンディング概要

火災をくぐり抜けた、奇跡の木彫板。

日本人が発掘に関わった、シルクロードのロマンを日本へ。

タイトル 国立民族学博物館 | 1000年の時を越える文化財。海を渡り日本へ**目標金額** 400万円**募集期間** 2025年9月16日（火）10:00～11月17日（月）23:00

1500年前のシルクロードの歴史を探る

日本・ウズベキスタン共同の発掘調査

日本とウズベキスタンとは、2013年度から共同で調査隊を組み、サマルカンド近郊に所在するカフィル・カラ遺跡において継続的に発掘調査を実施してきました。

当館も、2019年より、ウズベキスタンのサマルカンド考古学研究所と共同調査隊を組織し、調査に参画してきました。

目指すのは、6～8世紀を中心にソグド商人として東西のシルクロード交易で活躍したソグド人の歴史と文化、およびシルクロード交流の実態解明です。



画像提供：日本・ウズベキスタン共同調査隊



画像提供：日本・ウズベキスタン共同調査隊

出土直後の木彫版 女神ナナ頭部

女神ナナが描かれた「木彫板」を大発見！

発掘調査開始から4年後の2017年に、大きな発見がありました。それは、ソグド人が信仰するゾロアスター教に類似した宗教の神である女神ナナを中心に、供物を捧げる人々や、楽器を持つ音楽隊が彫られた木彫板の発掘です。

木彫板は、遺跡のシタデル（城塞部）の一番奥まった部屋（王が居た部屋とも考えられる）から発見されました。カフィル・カラ遺跡は、8世紀初頭に火災に遭っており、木彫板も焼けて炭化してしまっていますが、炭化したからこそ千数百年の間、地中に埋もれても腐って土に帰らずに現代まで残存していました。木彫板がこれだけ完全な形で発見されたのはウズベキスタン国内でもかつてないことだったのです。

なぜクラウドファンディングに挑戦するのか

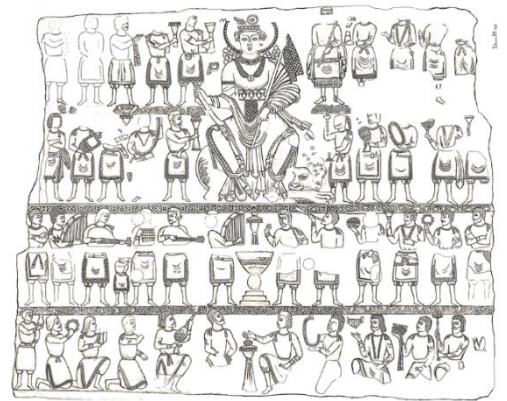
「木彫板」は、これまでルーブル美術館や大英博物館で展示されたことはありますが、高額な輸送費が壁となり、日本人研究者が発掘に関わったにもかかわらず、まだ一度も日本に来たことがありません。今回企画している特別展では、この「木彫板」をぜひとも、日本に持ってきてたいと考えています。しかし、昨今の国際情勢や燃料費の高騰により、輸送費は当初の想定を大きく上回る見込みです。



木彫板修復後全体像

このままでは、本来展示の一番の目玉としたい「木彫板」の展示を諦めることも視野に、規模を縮小せざるを得ません。発掘調査自体は研究費で実施ができて、出土資料を日本まで持ってくるための輸送費に充てる余裕がないのです。

そこでこの度、費用の一部を皆様からご支援いただき、なんとしても木彫板を日本に持ってきて、と考え、クラウドファンディングに挑戦することといたしました。



画像提供：日本・ウズベキスタン共同調査隊

Sketch by M. Sultanova

木彫板復元起こし

漫画家の森薫先生との限定コラボグッズなどの返礼品も！

『エマ』『乙嫁語り』などで有名な漫画家・森薫先生が、この特別展のために書き下ろしたオリジナルキャラクターのグッズなど、今回限定の返礼品もさまざまご用意しています。さらに国立民族学博物館へのご支援は全コース税制優遇対象です。



森薫先生限定コラボグッズ
オリジナルキャラクター
(ラフ案)



ウズベキスタン産
レーズン/クルミ



ウズベキスタンコットン製
甘襴りフェイスタオル



日めくり万年カレンダー
「モノとイトナミ」

資金使途

ウズベキスタンからの資料借用に関わる輸送費

※本クラウドファンディングはALL-IN形式で行われます。目標金額に満たない場合もクラウドファンディングは成立となり、その場合には集まった寄附金に応じて展示品を減らすなど規模を縮小し、特別展そのものは実施いたします。

※展覧会の目玉のひとつである「木彫板」については、目標額となる400万円が達成できなければ、輸送・展示が難しくなる可能性があります。

特別展概要

展覧会名	シルクロードの商人語りー ^{あきんど} サマルカンドの遺跡とユーラシア交流ー
会場	国立民族学博物館 特別展示館(大阪府吹田市千里万博公園10-1)
会期	2026年3月19日(木)～2026年6月2日(火)
開館時間	10:00～17:00(入館は16:30まで)
休館日	水曜日

実行委員長 寺村裕史(てらむら ひろふみ)

国立民族学博物館学術資源研究開発センター・准教授。

専門は情報考古学、中央アジアの考古学で、GIS や 3 次元測量などデジタル技術を用いた遺跡調査、資料のデジタル化と空間情報の統合研究に取り組む。古代シルクロード都市の形成、人・文化の交流、宗教の伝播と受容、古墳の立地や眺望分析など、多角的に文化景観を解明している。国内外での共同研究やデータベース整備にも積極的で、文化遺産の継承と公開に寄与。主な著書に『景観考古学の方法と実践』がある。



実行委員長メッセージ

2017 年のカフィル・カラ遺跡発掘調査の際に、女神ナナとそれを取り巻く人物群像が刻まれた木彫板発見の瞬間に立ち会えた時には私自身とても感動しました。カフィル・カラ遺跡は 8 世紀初頭に火災に遭っており、木彫板も焼けて炭化してしまっていますが、炭化したからこそ千数百年の間、地中に埋もれても腐って土に帰らずに現代まで残存していたともいえるでしょう。

そうして奇跡的に発見された木彫板は、写真でもある程度の雰囲気は伝わるかもしれませんが、木板に彫り込まれた精細な人物描写、微妙な凹凸や質感など、やはり実物がもつ魅力にはかないません。日本人が関わる調査隊が発見した本物を日本の皆さまに実際にその目でぜひ見ていただきたい。

しかし残念ながら、研究費で発掘調査は実施できますが、出土資料を日本まで持ってくるための輸送費に、それ(研究費)を充てる余裕はありませんでした。研究と輸送費用は別物なのです。そのため、クラウドファンディングに挑戦することに決めました。この女神ナナの木彫板を日本に借用するための輸送費について、皆さまの厚いご支援をお願い申し上げます。

特別展実行委員長 寺村裕史(国立民族学博物館 准教授)

【お問い合わせ】 国立民族学博物館 総務課 広報係

Tel:06-6878-8560(直通) Fax:06-6875-0401 Mail: koho@minpaku.ac.jp

プレス向けウェブサイト www.minpaku.ac.jp/press